



週 報



2026-2027 年度 RI 会長メッセージ「持続可能なインパクトを生み出そう」

地区ガバナーメッセージ

「Happy Rotary みんなのために」

東京本郷ロータリークラブテーマ 皆が主役の 誇れるクラブづくりに 皆で取り組もう

会長：星野大記 副会長：米倉伸三 会長エレクト：本郷 滋 幹事：澤部利蔵 会報リーダー：岩白啓佑

創立／平成 3 年 3 月 13 日 (1991 年)

例 会：水曜日・月3回 (内オンライン1回有) 12 時 30 分

例会場：ホテルメトロポリタンエドモント 電話：03-3237-1111

〒102-8130 東京都千代田区飯田橋 3-10-8

事務局:E-mail: office@t-hongo-rc.gr.jp



ホームページ



Facebook



ROTARY_HONGO_ROTARY_CLUB

「例会を録画したデータが事務局にあります」

第 1584 回例会

本日の卓話 (9月2日)

「人形浄瑠璃はなぜ人の心を動かすのか
—日本の伝統芸能から考える
次世代AIロボット—」

都留文科大学

教授 早野慎吾様

紹介者 杉山和也会員

次回の卓話 (9月9日)

ガバナー公式訪問

「ガバナー卓話」

国際ロータリー第2580地区

ガバナー 谷一文子様

8月26日第1583回例会報告

会長報告

1. 年度途中ではございますが、このたび会長を務めることとなりました。
市河会長が示された方針や大切にされてきた姿勢を引き継ぎ、円滑なクラブ運営に努めてまいります。
会員の皆様には、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

幹事報告

1. 熊本地震に関し第2720より井戸掘削・ボーリング業者の情報提供をご案内しましたが、
・ロータリアンの事業所であること
・被災地において、井戸掘削・ボーリング等の活動にご協力いただける可能性があることが補足情報として連絡がありました。情報提供期限は8月31日までとなります。
2. ベネズエラ地震 並びに 令和8年熊本地震 への支援金は本日のオンライン例会まで受け付けております。

3. 9月27日(日) お福分け会「事前準備・当日のお手伝い」につきまして、皆様の参加をお願い致します。
詳細は、配信しました週報に掲載しておりますので、ご確認いただき、手伝い可能日がありましたら、クラブ事務局へご連絡下さい。

出席報告

会員数	37 名
出席数／欠席数	22 名／15 名

ニコニコBOX

災害支援金へのご寄付

- ◆ベネズエラ地震支援金 澤部利蔵会員
- ◆令和8年熊本地震支援金 澤部利蔵会員

ご協力をありがとうございました。

8月5日、19日、26日の例会で皆様よりお預かりしました支援金は被災地区へ送られます。

第1グループ

「第1グループ 炉辺集会報告」



岩崎シェフ

1. 開催日 2026年8月20日
2. 会場 フレンチレストラン「フォーグレイン」
(ホテルメトロポリタン エドモント)
3. 参加者 松下、塙、星野、米倉、平野、小林(健)、
澤部(敬称略)

「最高の仲間との最高のフレンチ」を楽しみながら、終始笑顔の絶えない、和やかな炉辺会となりました。当日は、小林 GM より乾杯用にとシャンパンをご提供いただき、華やかな乾杯で会がスタートしました。SAA の役割や例会当番について改めて確認するとともに、今後のクラブ活動についても、食事を囲みながら活発に意見を交わしました。料理はどれも素晴らしく、ワインとの相性も抜群でした。岩崎シェフによる一皿ごとの丁寧な解説を伺いなが

ら味わう料理は、より一層深みを感じられ、まさに贅沢な時間となりました。特に太刀魚は、これまで味わったことのないほどの絶品。一口食べた瞬間、そのおいしさに会話も思わず「立ち往生(たちうお)」してしまいました。

また、ゴールドラッシュコーンのポタージュも、素材本来の甘みとうま味が存分に生かされ、まさに「うまい！」のラッシュでした。

平野さんは、ほろ酔い加減で少し遅れて登場され、会場はさらに楽しい雰囲気に包まれました。

おいしい料理とワイン、そして気心の知れた仲間との会話を通じて、親睦を一層深めることのできた、実りある炉辺会となりました。

幹事 澤部

第4グループ

「第4グループ 炉辺集会開催議事録」



1. テーマ 委員会の役割について
2. 開催日 2026年8月24日(月) 18:00 ~20:00
3. 会場 「ベルテンポ」 ホテルメトロポリタンエドモント 1F
ブッフエ+フリードリンク(2時間) ☎03-3237-7114
4. 参加者 山路・上田(欠席)・小林(正)・鈴木・
長久保(欠席)・飯塚・滝川・
小林(健)副幹事(敬称略)

鈴木さんより最近はじめたオンライン例会や、LINE 連絡網は遅滞ない連絡・報告等では効果を発揮しているが、このようなリアルな会は欠かせないと冒頭あいさつがあり「委員会の役割について」のミーティングが始まりました。

主に奉仕プロジェクト委員会が中心で、来る9月27日(日)「お福分け会」の開催に向けて、山路委員長より事前準備、当日等のお手伝い参加者状況、食材購入(政府備蓄米等)、購入予算等の説明、小林(健)副幹

事からは、今後も継続のために台車(約5台)購入の必要性、他参加者からも具体的な提案等があり、当日までしっかり準備していくことの再確認と、更に具体的な詳細を詰める為、8/31(月)13:00~関係者で Zoom ミーティングを行うことを決め、終了しました。

リーダー 滝川

「イニシエーション・スピーチ」

海とともに育ち、世界へ — 能登・七尾の田園風景から、旅の仕事、大学との新たな挑戦へ —



滝川 学会員



海の反対側には棚田が広がり、米や野菜も身近にありました。段々になった田で稲を育て、収穫後は「はぞ」に掛けて乾燥させます。家には囲炉裏とかまどがあり、お風呂は五右衛門風呂。子ども一人では中の板が浮いてしまうため、祖母と一緒に入っていました。牛を飼い、農作業も手伝わせていました。海の幸、米、野菜と食べ物はほとんど自給自足。今振り返ると、本当に豊かな暮らしだったのだと思います。

相撲と輪島への憧れ

石川県は相撲が盛んな土地です。横綱輪島も七尾市の出身で、私も子どもの頃は輪島関に憧れ、まわしを何本も持って毎日のように相撲を取っていました。輪島関の実家は床屋で、地元では大変な人気でした。2005 年 1 月 12 日には東京本郷ロータリークラブで卓話をされていたと教えていただき、思いがけないご縁を感じました。七尾には青柏祭など、海の恵みを受けた土地ならではの行事も根付いています。

上京、そして旅行業へ

高校時代はほとんど勉強しておらず、三年生の時、大学生の姉に「大学生になるにはどうすればいいか」と尋ね「勉強よ」。言葉には興味があり、神田外語学院で 2 年間、中国語を学びました。「中国へ行って中国語を話したい。お金がなくても行くには、旅行会社に入ればよいのでは」と考え、小田急系の旅行会社へ入社しました。長男だったため、父からは二年ほどで帰るよう言われていたのですが、せっかく東京にいるのだから少し働いてみようという思いもあり、中国旅行の添乗員に手を上げ、意気込んで現地へ向かいましたが、空港では現地係員が流暢な日本語で案内してくれ、自分の出番がなく、中国の方々の学ぶ力に驚かされたことを覚えています。

12 冊のパスポートが消えた日

20 代後半の頃、年末年始のスペイン・モロッコ 12 日間ツアーを担当しました。当時は「添乗員はパスポートを預からない」という方針に変わったばかりでしたが、お客様の不安から、学校の先生をされていた方が 12 名分をまとめて保管していました。最終日の朝、私は前日に買ったばかりのロエベのアタッシュケースへ 12 冊を移し、バスに置いてホテルに残ったお客様を呼びに戻り、運転手もお客様も乗っていたので大丈夫だと思って、戻るとケースがありません。「現地ガイドらしい人が持っていった」と聞き、盗まれたと愕然。。マドリッドの日本大使館へ電話すると、「日本

能登・七尾で育った私

海も山も食べ物も身近にある、豊かな暮らし

私は 1960 年 12 月 10 日、石川県七尾市の生まれです。家の前は富山湾で、海から日が昇る景色を見ながら 18 歳まで過ごしました。周囲の大人の多くは漁師で、家を出ると視界の八割以上が海という環境でした。富山湾では定置網でブリを獲ります。漁場は家から三、四キロほど沖で、カモメが集まると魚が入った合図。翌朝四時半頃から、みんなで網を引きに行きます。夜には集魚灯（漁火）をつけたイカ釣り漁船が出ます。獲れたばかりのイカは透明で最高に美味しいです！

がお正月で、確認がとれないのでなにもできない。」と断れ、日本航空へ相談、とりあえず警察で盗難証明をもらってくるように指示され、何とか取得。その後急ぎタクシーで空港へ向かうが渋滞中。既に出発予定時刻（12：25 発）迫っており、一瞬「このままスペインで俺だけ逃げようか？」とよぎったが、「やるだけはやろう！」と運転手に 300 ドル渡し、路肩を走らせ空港へ何とか到着。既に出発時間過ぎていたが（飛行機は待機中）、お客様が不安な顔で待ち構えており、JAL の支店長と出国係官へ交渉。最初はお金で解決できないかと相談したが JAL からいさめられ、私から直談判で「盗難証明があること、とにかく今の便に乗って帰らないと大変なおことになる！」とつたない英語で強要、、「スペイン国は、これからおこることは関知しない！後は日本国で処理してくれ！」と「係官がペンを落としそれを拾う為、下を向いた瞬間」お客様へ「行きます！！」とゲートへ猛ダッシュ。。なんとか搭乗し帰国。その後の処理で外務省に呼び出されたり、時間もかかり大変でしたが、日本での処理なので苦にはならず、処理が終われば退社するつもりでしたから。。がなぜか？小田急側からおとがめなしとなり旅行業を継続しました。（後からわかったのですが、どうも帰りの機内で、お客様全員が署名。その嘆願書が会社へ届いた。陳謝！）



大学との新たな挑戦

伊藤守さんと出会い、旅行業を経て、イベント・印刷・広告・旅行業を行う会社を昨年立ち上げ、法政大学をはじめ大学提携し、学生募集、教育、旅行に関わる事業を開始しました。世界大学ランキングで東京大学が 26 位と、中国の大学にも追い抜かれるなど、大学を取巻く環境・競争は厳しい。ただ武蔵野大学のように「ウェルビーイング学部」昨年開設、(私も関り)この時代あった考え方は一つの戦略で、ロータリー精神にも通ずるところもあり、飯塚さんからお誘いを受けたときに「宿命？」を感じ、全くできていませんが、「超私の奉仕」を脳に刻み、今後の活動に半歩ずつ前進してきたいと思います。